

日向工業高等学校建築科「よのなか教室」

平成27年7月14日（火）

講師：内山雅仁氏・田口春香氏【株式会社内山建設】

テーマ：「将来のために今できること」

「働くということ」

【田口春香さん】

現在、内山建設で施工管理を担当しています。施工管理はお客様と職人さんの間に立って、お客様の想いを伝えそれを形にする仕事です。段取りだけではなく、コミュニケーションが大切な仕事です。

<夢について> 皆さんと同じ時期に描いた夢は「建築士になりたい」ということ。昨年2級建築士を取得し、資格に恥じないように努力しています。高校が建築科ではなかったため、「建築士になれるのか」「女性でも大丈夫か」など不安もありました。実家のリフォームを考えたり、福祉住環境コーディネーターの勉強をしたりする中で、いろいろな知識を蓄え、お客様に提案できる事が建築の面白さだと気付きました。

<建設業について> 建設業に、どんなイメージを持っていますか？「きつい・汚い・危険」3Kという言葉がありますが、私の建設業に対する3Kは「感動・感激・貢献」です。建築の魅力は「地図に残る仕事」である事と同時に、「衣食住」の一端を担う事です。家族の一番の思い出を造る仕事を、誇りに思っています。また、女性でも建設業で仕事をやっていけるのかという心配があると思いますが、大丈夫です。やっていきます！職人さんから厳しい事を言われることもあります。女性にしか気付けない部分もあるので、男性と対等に仕事が出来るよう努力しています。

<後輩へ伝えたい事> 進路が明確に決まっていなくても、焦る必要はありません。将来は自分で決めるものです。宮崎に帰ってきたのは、地元でも建築の仕事が出来るからです。自分が育った所で、自分の大好きな仕事ができたら、より誇りを持って取り組めると思います。皆さんの中から日向・宮崎をもっと盛り上げてくれる人材が出てくれると嬉しいです。知人の言葉で「努力によってやりたい仕事に就けることはあまりないが、日本はそれが出来る」というものがあります。高校時代は今しかありません。働き始めて思うのは、学生時代にやり残したこと。今を大切に生活して下さい。



【内山雅仁さん】

人口推移表を見ると、皆さんが最前線で仕事をしている2040年頃、生産年齢人口が今より3000万人、率にして3割ほど減少します。更に20年経つと、今の半分ほどになる予想も出ています。それだけ、働く皆さんへの期待や責任が大きくなります。これまでは、入社後5年程で独り立ちしていたのが、これからは3年程で現場を任せられる事になると思います。これから建設業は仕事が少なくなるという意見もありますが、公共の建物が今後老朽化する時期に入るため、発注数は増加していきたくらうと予想されます。また、業界内で40歳未満の比較的若い方が締める割合は、昭和45年頃8割ぐらいでしたが、平成17年で約5割、27年以降は約3割になります。それだけ皆さんの年代に期待がかかっているということです。

<働くということ> 働くということは、プロであるということ。つまり仕事の成果に対してお金をいただくということです。プロは成果を出す責任を負います。そして働きだすと、学校以上にルール違反は重く罰せられます。また、会社は給料以上の利益を上げないと存続していきません。アルバイトの場合は給料の分だけ働けば良いでしょうが、会社の一員となった以上は、利益を出す責任が求められます。

<地元で働くということ> 都会で働くのと違って、人との関わりが感じられます。地元ならではの行事や祭りに参加できるし、自然を身近に感じる事もできます。都会では、海や山に行くのに1時間以上かかることが普通であることを考えると、日向は恵まれた土地だと言えます。また、高齢化していく家族の世話を近くで見られるという点も、地元だからこそできるメリットです。

<建設会社で働くということ> 『何も無いところに形のあるものを造る』というのが建設会社です。ある意味建設会社は、音楽や絵画を産み出す「芸術」の分野ではないかと思えます。芸術家は視て、聴いて感動してもらうのに対し、建設業は物を使ってもらって感動させる職業ではないでしょうか。感動を与えられる、これが建設業の楽しみです。

この他にも、台風などで道路が寸断されたり、災害が起きた時に第一線で活躍したりするのは我々建設業なのです。コミュニティーの中でも、建設業に携わる人に対する期待感は大いなものがあります。

<採用時に見られるポイント>

①元気である②前向きな気持ち③仕事に夢・やりがいをもつ④頑固である⑤柔軟性⑥我慢

<入社後に見られるポイント>

①早く入社する②身の回りの整理整頓③身だしなみ④指示されたらまずは一生懸命取り組む⑤同じ失敗は繰り返さない⑥メモを取る⑦嘘をつかない、どれも簡単なことです。

<成長する会社とは>

①社長にビジョンがある②社員が「社長は厳しい」と口にする③明るい④失敗を歓迎する
※就職する時は、社長に会って話をする、もしくは社長について調べる事をお勧めします。

<贈る言葉>

- ①「職場はいつも楽しいところではない」
- ②「今の功績を支えているのは、いい結果の積み重ねではなく、屈辱の積み重ねである」
- ③「職場は楽しく感動できる場所である」④「尊敬できる先輩、上司を探そう」
- ⑤「巧詐(こうさ)は拙誠(せつせい)に如(し)かず」⑥「石の上にも3年」
- ⑦「就職、就学が決まったら、出来るだけ長く、遠くに、安く旅に出よう」
- ⑧「未来を予測する最善の方法とは、未来を自ら創造することだ」

～生徒の感想～

- 就職を目前に控えた私たちにとって、大切な話を聞かせていただきました。建設業に就いている女性の話を聞いたのは初めてだったので、興味もあり、集中して聞き入っていました。田口さんのお話にあった、「自分の努力次第でどんな業界でもやっていける」を聞いて、私も今のうちから頑張っていれば、将来多くのことに携わることができるのかなと思いました。男女の差をなくして働けることは、とても素晴らしいことだと思うので、これから世の中がそんな風に変化していけばいいと思います。山内さんのお話では、社会に出て役に立つヒントがたくさんあったと思います。会社の信用を無くさないためにもルールは必ず守ることや、採用時や入社後に見られる点、成長していく会社の見分け方など、会社側が考えて入ることが分かったので今後の就職活動に生かしていきたいと思います。私は県内就職を希望しているので、地元で働ける喜びを実感しながら仕事をしたいです。先日別の講演会で、地元で自分のやりたい仕事があれば自分で作ればよいという話を聞きました。簡単にできることではありませんが、一生懸命頑張ってみようと思います。若い時期の特権として、先輩の方々に沢山の事を教えていただき、学びながら成長し、将来に役立てたいです。
- お二人の話を聞き、改めて建設業は面白そうだったのと同時に、就職試験での面接は怖いものだと思います。これから私たちは就職・進学を決める試験があります。面接でどこを見られているのか、また、急な変化球に対する答え方など細かい所まで見られているのだと改めて知ることができました。建設業のすごい所は、地域の人たちに信頼されている所だと思います。様々な場面で活躍していることも知ることができました。これまでの建設業に対するイメージは、怖い方が多いとか厳しそうとかマイナスなものが多くありましたが、今回の話を聞いて、その厳しさの裏側には会社を想ってのことだったり、現場の安全を守ったりすることだったり、前向きな業界なのだとわかりました。人の気付かない所でも活躍できるのは、すごくカッコいい事だと思います。今日の話は為になる内容が満載でした、これから面接の練習も増えてくると思うので生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- 内山建設の社長さん、田口さんの講演で、沢山の事を学ぶことができました。様々な経験をされてきたお二人の話だったので、一つひとつの言葉がとても胸に響きました。田口さんは夢について話してくれました。僕にはまだ明確な夢はありませんが、目標があります。希望している企業に一発合格することです。就職した後、何かしらの夢を持ちながら働くことが今の夢なのかもしれません。内山さんの話で印象深かったのは、「貰っている給料以上の利益をあげること」です。また、入社後に大切な事も教わりました。早く入社する、身だしなみに気を付ける、指示された事は一生懸命に取り組むなど、一見当たり前のように思える事ばかりですが、これらはどれも習慣づいていないとできないものだと思います。今のうちにこのような基本的な事を身に付けておこうと思います。そして、贈る言葉の中で印象深かったのは「巧詐は拙誠に如かず（こうさはせっせいにしかず）」です。巧みに偽り、誤魔化すことができても、誠意のあるものには勝てないという深い意味です。今回の講演は学ぶものがとても多いものでした。これから、目標達成に向けて精進していきたいと思います。

- 今日の講演は、内山社長と田口さんのお二人によるものでした。前半田口さんの話では、女性ならではの建築への考えや、仕事のやりがいについて話していただきました。建設業界というと男社会というイメージがありますが、建物を造る中での女性の意見というものは、これまで以上に大切になっていく時代だと思います。田口さんの仰っていた「どんな業界でも自分の努力次第で何とかなる」という言葉を信じて、自分に合った就職場所を見つけていきたいと思います。後半は社長さんから「働くということ」について聞きました。これからの建設業界は、受注が増えるのに従事者が減っていく事が統計で分かっているそうです。そして、早い経験年数で現場を任せられる事も増えてくるだろうと仰っていました。この事は、私たちにとってプラスになるのだろうと思います。次に入社時に見られるポイントなどを教えていただきました。これは、高校生活とあまり変わらないので、今の生活をしっかりとしていれば大丈夫だと思います。改めて、学校は社会に出ていくための練習場所なのだと実感しました。また、就職前には必ず面接があります。そこで大事なのはコミュニケーション能力だということ学びました。これは、普段から鍛えておかないと絶対にできないことなので、今のうちから訓練しておきたいと思います。最後に「旅をしろ」という言葉は胸に残りました。遠くへ、永く、お金をかけずに旅をすることの必要性を説かれました。今日の講演会はこれからの我々にとって、とても大事なものが満載でした。しっかり考えて生きて行こうと思います。
- これまでも先生方から、同じような話をしていただく事がありましたが、女性で建設業に就いておられる方の話は初めてでした。これまで、女性にとって建設業は難しいのではないかと考えていましたが、今日の話聞いて、すごく安心したし頑張ろうと思えました。お話の中で出てきた「3K」はよく耳にする言葉です。3つともマイナスな意味でしたが、田口さんの仰っていた「感動・感激・貢献」は斬新な考え方だと思います。また、地図に残る仕事という言葉は、とても心に響きました。他にも、今を楽しんだほうがよい、自分の選んだ道が正解、など沢山励ましの言葉を頂きました。社長さんのお話では、採用時に見られるポイントなどを教わりました。私たちはこれから、就職活動が本格的になります。お話いただいた事を面接時に生かしていきたいです。3年生として、する事やしないといけない事が満載ですが、残りの高校生活を大事にして、自分らしい将来を築いていけるよう頑張っていきたいです。お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。数年後、今度は私たちが後輩のために話せるよう、人生経験を積んでいきたいです。